

森づくりシンポジウム

豪雨からはじまった

市民の木づくり

2000年(平成12年)9月11日に起きた「東海(恵南)豪雨」を覚えていますか?



とてもたくさん雨が降り、山は崩れ、木が流れ、川の水は溢れ返り、多くの街が被害を受けました。この溢れ返る水の源は森林である、このとき我々は気づきます。

このような被害を二度と起こさないようにするにはどうしたらいいか? 私たちは考えました。街の行政は上流の森づくりを決意推進し、市民は自らチェーンソーを手に取るとともに、より多くの市民に森林に目を向けてもらう活動をスタートしました。

あれから20年余過ぎる昨今、豪雨災害は毎年日本のどこかで常態化するかに起きています。またいつ我々の地にも起きてもおかしくありません。

20余年前の「東海豪雨」のとき我々は何を考え、行動したかを思い出し、これからの森づくりをあらためて考えるきっかけにしたいと思います。

参加費 無料 [申込必要]

令和6年 6月1日(土) 14:00~17:00

定員150名(無料)

豊田市 崇化館交流館 大会議室 [豊田市昭和町2-46]

申込方法

豊田市・森の総合サイト「Tomori」に掲載されている、本シンポジウムの申込み入力フォームよりお申込みください。

本シンポジウム掲載ページ <https://tomori-toyota.net/events/94>

※崇化館交流館の駐車場利用はご遠慮ください。

お車で越しの方は近くのフリーパーキング、または本シンポジウム無駐車場※1をご利用ください。

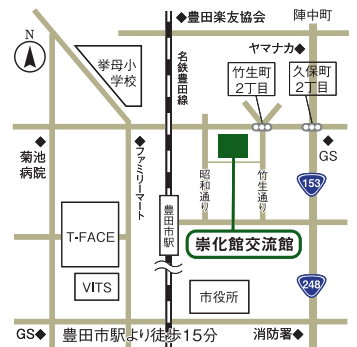
※1無料駐車場については4月以降の森の総合サイト「Tomori」に掲載をいたします。

豊田市・森の総合サイト

Tomori



お申込みはこちら



主催: 矢作川水系森林ボランティア協議会(矢森協)

協力: (一社)おいでん・さんそん / おいでん・さんそん森林部会 後援: 豊田市

お問合せ先: 矢森協 代表 恵比根 美明 E-mail: togomansha_eyoshi@wh.commufa.jp Tel.090-4157-1613

森づくりシンポジウム[プログラム]

13:30～14:00	開場
14:00～14:45	開演挨拶 第1部 基調講演
14:45～14:55	①「(仮題)豪雨災害と森林」 蔵治光一郎さん
14:55～15:10	②「(仮題)豊田市の森づくり」 小山剛さん
15:10～16:40	休憩
16:40～16:55	質疑応答、閉会挨拶

出演者紹介



豊田市前市長・名誉市民
鈴木 公平(すずき こうへい)さん

1939年豊田市生まれ。2000年2月第7代豊田市長に当選(3期12年在職)。この間、財団法人2005年日本国際博覧会副会長、中核市市長会会長、国土交通省水資源政策評価検討委員会委員ほか多数歴任。2005年7市町村合併に尽力。都市内分権や森づくり行政等、都市と中山間地域の共存共栄施策に取り組む。



東京大学大学院農学生命科学研究科教授 とよた森林学校校長
蔵治 光一郎(くらじ こういちろう)さん

東京大学農学部林学科卒。青年海外協力隊員としてボルネオ島の森林研究所にて勤務。2003年から13年間、瀬戸市の東京大学の演習林勤務、2005年からとよた森づくり委員会委員を連続8期16年間務めた。矢作川森の研究者グループ共同代表、矢作川流域園藝談話会山部会長、水循環フォローアップ委員会座長を務める。



矢作川森の健康診断委員会 代表
丹羽 健司(にわけんじ)さん

2001年に農林水産省出先で豊田市の山主1000人アンケートを企画分析。同年「足助きこり塾」を創設し、2004年に「矢森協」立ち上げ、2005年から「森の健康診断」、2009年から「木の駅プロジェクト」を全国に普及、2017年から海上の森で「森女養成講座」開講中。キーワードは「素人力」。



おいでん・さんそん森林部会 とよた森林学校理事
山本 薫久(やまもと しげひさ)さん

元小学校教員。43歳の時に農的暮らしを求めて旧足助町へ移住。田んぼの化学農、自然農、有機農を实践。山仕事も覚える。豊田市合併後15年間、都市と農山村交流事業を展開。その後NPO活動を地域に限定し活動。現在はとよた森林学校スタッフを継続しながら、地域で農的暮らしと山仕事を担う半農半林のあり方を実践・模索中。



豊田市 産業部森林課 担当長
小山 剛(こやま こう)さん

2002年福武町役場入庁。2005年市町村合併により豊田市森林課発足時メンバー。2015年から地域振興部地域支援課で山村振興等を担当。2020年から現職(林政通算16年)。現在は間伐推進、計画策定、人材育成等を担当。2015年森林総合監理士登録



豊田市矢作川研究所 主任研究員
洲崎 燈子(すざき とうこ)さん

博士(理学)。矢作川流域の河畔植生や水源林、里山の現状と成立過程、望ましい管理手法等の調査・研究に携わる。矢作川流域の森林、特に面積の広い人工林と里山林に関わる人を増やして、自然再生を進めたい。矢作川森の研究者グループ共同代表、いなかとまちの文化祭実行委員長。

矢作川水系森林ボランティア協議会(矢森協)とは？

愛知県豊田市の中央を流れる一級河川・矢作川。その流域の森林環境を守ろうと多くの森林ボランティアが活動しています。その集まりが「矢作川水系森林ボランティア協議会」(2004年1月結成)、通称「矢森協」です。その活動は主に間伐作業ですが、各ボランティアチームが協力し合い、森林の調査、間伐材の活用、地域との交流など様々な活動を繰り広げています。

矢作川水系森林ボランティア宣言

歴史が証明している。いつでも、どこでも、文明を支えてきたのは、森だった。

おい！13万ヘクタールの矢作川の森は大丈夫か。

森の悲鳴が聴こえてこないか。荒廃しているのは森だけではない。森に支えられていた人の暮らし、文化、産業、人の心が荒廃しているのだ。

もう手をこまねいてはいられない。千分の一でも、万分の一でもいいのだ。実際に森に入ろう。

安全第一、効率におわれぬよう、しっかり学び、ていねいに作業しよう。

私たち森林ボランティアは身をもって知った山の大切さ、山の楽しさを多くの都会の仲間にも語ろう。

素人山主さんたちよ。あなたの山で、いっしょに山の手入れを学ぼう。できることから作業していこう。

そして、庭仕事のように、愉しんで山仕事を続けよう。一年に1週間も山に入れば、ずいぶんきれいになる。

山仕事のプロたちよ。この森を再生させるのは、あなた方の活躍にかかっている。

山造り先生、島崎洋路は言う。「全国に20万人の真摯な「山守り」と、

国家予算のごく一部が直接山造りに投入できれば、やつれが目立つ日本の山々も、再生は可能だ。

私たちは真摯なプロの「山守り」を応援する。

私たち森林ボランティアは、山と都会に幅広い森の応援団をつくり活動することを、ここに宣言する。

2004年1月18日

矢作川水系森林ボランティア協議会

矢森協各団体の主な活動拠点



構成団体へ毎年増え、17団体(200名)に達しています。(19.4現在)



矢作川水系森林ボランティア協議会Webはこちら
<https://yamorikyou.wixsite.com/yamorikyou>

